

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502785		
法人名	特定非営利活動法人 実りの里 りん		
事業所名	グループホーム 凜		
所在地	札幌市白石区米里3条1丁目2番4号		
自己評価作成日	平成23年6月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502785&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの入居者の高齢化が進んで個々の体力に差があるものの毎日実施している(天候、健康状態を考慮して)散歩と散歩を通して行われる地域住民との交流は入居者の健康の増進と社会性の向上に大きな成果が得られており住宅地に立地する当ホームの利点でもであると自負しています。パークゴルフを実施しており施設周辺には公共のコースもあり入居者の方々の楽しみと健康の向上に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 凜」は豊平川緑地公園や多くの公園が点在する自然豊かな閑静な住宅街に位置している。自然環境を活かしながら日常的にほぼ全員が散歩に出かけたり、季節に応じてラジオ体操や近隣の入浴施設、知り合いの畑や海水浴などに出かけるなど、年間を通じて外出支援が積極的に行われているグループホームである。開設以来、地域との交流も活発に行われ、個別にも町内会に加入して行事に参加したり野菜のお裾分けを互に行うなど地域の一員として日常的に交流を行っている。理事長をはじめ全職員と多くのボランティアの方の協力を得ながら個々の利用者の意向に沿った柔軟な対応を日常的に行い、心身ともに充実した温かなケアが行われている。各職員の利用者一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけと温かな接し方は利用者の明るい笑顔と生き生きとした生活を支えている。また災害対策については、定期的な災害訓練以外に自主訓練を実施したり、火災以外の災害時に対する避難確認、職員の救急救命訓練の定期的な受講、災害備蓄品の整備など充実した対応が行われている。各利用者は家庭で過ごすように自分らしく落ち着いた日々を過ごし、明るい笑顔と笑い声が絶えないグループホームである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有、熟知し実践を行っている。定期開催(月2回)されるカンファレンスの中で理解を深め実践の方法を常に話し合っている。	開設時に作成した3項目の理念の中に、地域との輪を大切に活動するという地域密着型サービスの意義を踏まえた項目を作成し、事業所内に掲示すると共に各職員のネームプレート裏に記載している。各職員は常に理念を念頭に、日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事には積極的に参加している。町内会長や地域住民との交流を図っている。具体的には町内会ゴミ拾い、新年会、敬老会、夏まつり、秋まつり等に参加している。	法人として賛助会員になると共に個別に正会員として町内会に加入している利用者もあり、積極的に各種行事に参加している。外出時に挨拶を交わしたり、野菜や花、オムツなどをもらったり、事業所からも野菜を近隣にお裾分けするなど日常的に交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長を通して近隣に生活する高齢者の方々の受け入れが可能であることを伝えている。また毎日の散歩の時にゴミ拾いをしながら歩く事を実践しており地域の環境保全にも貢献している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で活発に提出された意見を元にサービスの改善の目標を立てその成果については次回の会議にて報告を行う事でサービスの質の向上に努めている。	町内会長や地域包括支援センター職員、家族などが参加して2ヶ月毎に行われている。行事報告や予定、災害対策、外部評価結果報告、参加者からの介護関係質問など質疑応答が活発に行われている。メンバーが固定化しつつあるため、現在メンバーの多様化を検討している。	メンバーの多様化を今後検討したい意向なので、有識者や知見者などの参加が得られるような方法について、職員間や運営推進会議で話し合う機会が持たれるように期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度必要に応じて電話等でサービス向上に関する相談や報告、意見交換を行っている。制度変更に伴う関係書類提出に当たり文面では分かりづらい事が多々あるため必ず電話か訪問で確認している。	市役所の担当者とスプリンクラーの設置に関して相談したり、各種変更届など事務的な相談を随時行っている。利用者に関することは地域包括支援センターの担当者と連絡を取り、情報交換を行っている。生活保護課の職員が来訪した時には直接利用者に関して相談を行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者並びに全職員は指定基準における禁止対象となる具体的な行為を理解している。玄関の施錠は行っていない。	身体拘束に関するマニュアルを整備して全職員に配布している。外部研修後に報告研修を行ったり、内部研修を定期的に行い、全職員で拘束をしないケアに取り組んでいる。家族から安全面を考慮して要望されることもあるが、随時家族と話し合いを深め身体拘束をしないケアを行っている。玄関の鍵は施錠することなく、全職員で出入りを把握して安全面に配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で高齢者介護を行う者としての倫理観を話し合い職員相互に目を配り虐待を見逃さないように努めている。カンファレンスの中で虐待防止の研修会を定期的に行っておりそれらについて記録がなされている。		

グループホーム 凜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修や施設内での勉強会を通して事業内容や制度の活用についての理解を深める必要に応じて入居者の方々に支援できるような体制を作っている。実績として事業所が仲介を行った後見制度がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い説明事項の各所に疑問点や不明な点がないか確認しながら説明を進めている。不明な点があればいつでも説明させていただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情について苦情処理マニュアルに沿って対応が行われているが内容を精査して話し合いの場を設けて質の高いサービスの提供に心掛けている。常に要望を伺っている。例としてこれまで避難訓練の実施やスプリンクラーの設置に関する要望をいただいている。	ホーム便りを作成して利用者の様子を毎月写真などで報告したり、家族の来訪時に本人の状況を話し、家族からの意見や要望がないか声かけをして常に聞き取るように努めている。ケアに関しても具体的な対応を説明して家族の意向を聞きながら実施に繋げている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的開催しているカンファレンスの中で意見や提案を聴く機会を設けている。	カンファレンスの中で利用者の支援について意見交換を行ったり、献立や行事なども全職員で話し合いを行い実施している。一日の流れの中でも職員間で声を掛け合い、利用者がよりよい生活ができるように日々支援を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境や条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部開催研修の情報については随時周知を行い必要に応じて参加を促している。研修参加に伴う勤務調整も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開催のGH管理者会議等に管理者は出席して同業者との交流、情報交換に努めサービス向上に活かせるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談から本人の要望を十分に把握して施設の説明を行い理解を仰ぎつつリロケーションダメージの緩和に努めながら徐々に信頼関係の構築を進めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で施設の基本理念や取り組みについて十分に理解していただき要望の把握を行いながら家族の方々が安心していただけるサービスの提供に心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人の話を傾聴しながら身体状況や環境を考慮しながらサービスの提供に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の方々の出来ない事を支援する一方で人生の先輩である入居者の立場を踏まえ生活の知恵や体験談を学び共に成長できるように努力している。入居者と職員の間においても互いに失礼のない人間としての立場を尊重し合える関係が築かれている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に気軽に参加していただき家族の入居者に対する想いや今までの生活歴、将来に対する希望を聴かせていただくと共に施設の支援方針等をお伝えして共に入居者の生活を支える関係作りを行っている。どの家族とも親和に語り利用者の話又は世間話を心から楽しむ事が出来る。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙については積極的に利用が出来るように支援を行っている。施設への訪問や近親者宅への訪問も支援している。入居前の人間関係の継続に積極的に支援を行っている。	自宅を一緒に見に行ったり、お墓参りや好きな物を食べに行くなど本人の希望に応じて積極的に支援を行っている。クリスマスに神父の訪問を受け入れたり、家族などに出す手紙の記入を手伝うなど、個々の利用者の馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立する事のないように食事の席や行事等での配置も工夫している。又、良好な関係が築かれるように職員が介入しながら支援を行っている。利用者同士が思いやり助け合える場面を創出出来る支援を行っている。		

グループホーム 凜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者や家族の方とは契約が終了しても連絡が取れ相談が出来るように配慮している。お届けしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から本人や家族から要望を十分に聴き取り入居後のリロケーションダメージを緩和しその人らしい生活が送られるように支援を行っている。生命の維持に影響を及ぼさない限りにおいて本人の希望把握と実現を目指している。	利用開始時に生活歴などの情報を聴き取り、記録して全職員で内容を共有している。日々の会話の中から本人の意向や希望を把握したり、言葉での表現が難しい利用者は、行動や表情、働きかけに対する拒否反応などを見ながら把握し介護計画に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を収集した内容については個人ファイルを作成して個人情報(生活歴、サービス利用の経過)を集約し把握に努めている。新入居者についても全職員に個人情報の周知を図り情報の共有を図られるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活はその方のADL、嗜好により一人一人違いご本人の有する力、又は好ましい生活様式を家族や人との関わりが作る多くのご本人の表情、疲労感等によって把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々の身体状況や精神状況に合わせた介護計画を作成している。介護計画作成時には事前に本人又は家族にモニタリング結果を報告し要望を聴き取りケアマネと職員が意見を出し合い入居者の実情に迫るプランの作成に努めている。作成後は本人、家族に十分に説明し理解をいただいた後に支援を開始している。	新規利用者の介護計画は本人の状況に応じて1~3ヶ月後に見直しを行っている。定期的な見直しは3~6ヶ月毎に計画作成担当者を中心に項目毎に全職員で見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。作成した介護計画は家族と利用者の状態に応じて本人にも説明を行い、署名捺印を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別の情報ファイルを作成して入居から退居までの記録が記され保管されている。記録は入居者毎に担当を決めて日々の変化や状態が分かり易いように記録、介護計画作成に活用されている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やその家族におかれた環境の変化によって柔軟に対応して必要なサービスの提供を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、商店、民生委員、ボランティア、警察、消防との協力体制を取っているがより一層協力体制を上げ良質なサービス体制を目指している。特に火災への取り組みは消防署立ち会いで昼夜を想定した訓練の実施と綿密なマニュアルの作成を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受ける事で身体状況の変化を把握していただいている。特変時あるいは緊急時には受け入れの体制が整っている。主治医は特変時に不定期で往診を実施健康の管理強化が保たれている。	希望に応じてかかりつけ医の受診継続は可能であり、家族が受診に同行する場合は必要に応じてメモ書きで日頃の状況を伝え、適切な医療が受けられるように支援している。受診・往診の内容は連絡ノートに記録し、全職員で内容を把握できるように工夫している。	

グループホーム 凜

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員を配置して訪問診療との連携を図り入居者の方々の健康管理に努めている。健康状態の変化について把握することが出来ている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との間で入退院の連携が取れており病院側にも早期退院による認知症及びADLの低下予防を理解いただいている。情報交換を密接に行いながら入居者の方々が安心して入退院が出来るように支援を行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りについて家族に説明を行っている。訪問診療、協力医療機関との連携を取り緊急時の受け入れ体制を整えている。終末期と判断された場合、医師、家族、ホームで話し合いターミナルに取り組みその人らしい看取りを行っている。また、カンファレンスで支援の方向性を常に話し合いながら家族との話し合いも適宜行っている。終末期の介護の勉強会も実施している。	「重度化した場合の対応指針(同意書)」を作成して、利用開始時に看取りに関する考え方を説明している。利用者の状況変化に応じて医師、家族、事業者間でその都度対応方針を話し合い、書類を作成している。開設以来4名の看取りを行い、看取り後に勉強会を実施して今後のケアの向上に繋げている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命救急の研修を受講してカンファレンスの中で研修報告と実践方法について受講者からの報告に合わせ多様な場面を想定した勉強を行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えたハザードマップを熟知して災害時の避難経路、場所を確認し常に近隣住民からの協力も得られるように日頃から連絡体制を築いている。又地域の中に災害発生時の協力者も確保されている。	年間を通じて自主訓練2回、消防署の協力の下2回、それぞれ夜間を想定した避難訓練を実施している。地域役員その他、近隣にも個別に協力を依頼して災害時の役割分担を確認している。職員の救急救命訓練を定期的の実施し、災害備蓄品も玄関に整備している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にとっては自分以外の入居者の関係記録が他者の目に触れないようになっている。接遇についても個人を尊重して気持ちを傷つける事のないように配慮している。	呼び名は苗字か名前に「さん」付けを基本としており、その他の親しい呼び方をする際は本人や家族の同意を得ている。個人ファイルは鍵のかかる場所に安全に保管している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通して本人の希望を把握しながら可能な作業に専念している。毎日の着衣や献立の希望についても可能な限り自己決定出来るように支援を行っている。入浴準備も可能な限り本人と一緒に衣類を選ぶようにしている。シーツ交換も一緒に行っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節の行事や散歩、パークゴルフ、体操、入浴デイ・ケア通所と言った日々の予定の中で利用者が無理なく自分のペースで参加出来るように支援を行っている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類、帽子、靴の選択をしている。外出が可能な方には理美容の支援、外出が困難な方には訪問理美容の提供を支援している。			

グループホーム 凜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は健康状態を考慮しながら利用者の意見を取り入れるようにしている。旬の食材を取り入れ季節感に工夫している。常食が食べられない方や摂取量に制限がある方についても楽しんでいただけるような盛りつけや食器の工夫を行っている。鮮度の良い生魚、生野菜、自家畑で採れた作物も活用している。	能力に応じて調理や下膳などを手伝ってもらっており、利用者と職員と一緒に食事をしている。自家畑で採れた旬の野菜も提供している。塩分を控え、1日30品目以上を提供するように心掛けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康状態や医療的な指示に従いながら十分な水分量、栄養に心掛け調理、提供を行っている。食事の残食は一切なく水分は純水分で1,500～1,600ml無理なく摂取していただいている。チェック表を設け摂取量の確認を必ず行っている。食材については一日30品目を心がけ調理に当たっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行いながら可能な限り自力での口腔内の清潔の保持に心掛けている。動作の自立度に応じて職員が一部介助を行っている。定期での診察の他異常を認められた時は訪問歯科との連携も図られている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄サイクルを把握するために排泄チェックを行っている。利用者の身体能力に合わせて可能な限り排泄動作が行えるように自立支援を行っている(拭き取り動作、水流し動作、手洗い動作)。	全員の排泄チェック表をつけパターンを把握し、プライバシーに配慮しながらさり気なく誘導している。オムツやパッドの使用者も多いが、なるべくトイレでできるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄サイクルを把握するために排泄チェックを行っている。排泄のリズムが崩れないように食物繊維や水分の摂取量に配慮して散歩等適度な運動の確保にも努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴動作の自立している方の希望は考慮している。介助を要する方々については話し合いで入浴の順番を決めたり湯温の希望を聴くなど配慮を行っている。現在週3～4回の入浴を行っている。月1度位温泉に行き広い浴場でのびのびと入浴していただき心身のリフレッシュを図っている。	ほぼ毎日、午前・午後とも入浴が可能になっている。デイケア利用も合わせると週3回以上の入浴が実現できており、入浴拒否もほとんどない。入浴剤を使い、楽しめるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や習慣に応じた休息を提供している。良眠のための配慮として室温、湿度、音、光の調整を行ったリシーツ交換、布団干しを定期的に行い清潔な寝具の提供や昼夜逆転にならないように配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各人が服用している処方情報紙をファイルしていつでも閲覧出来るようになっており職員は定期的にカンファレンスにて薬の目的などについて周知するとともに把握に努めている。処方の変更については職員が把握出来るように情報の伝達(申し送りノートの活用)に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去に習い事を希望する入居者に楽しみが継続できるように支援を行っていた。歌唱に関心のある方とは一緒に唄い、家事が出来る方には安全に参加していただけるように本人の能力に合わせ活かせる場を提供し支援を行っている(洗濯物干し、たたみ、野菜の皮むき等簡単な調理作業)春夏秋期の取り組みとしてパークゴルフへの参加を支援し入居者は楽しみながら参加して健康増進に取り組んでいる。		

グループホーム 凜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態や天候を考慮しながら散歩はほぼ毎日実施している。行事等の外出についても健康状態を考慮して実施している。雨天、降雪時にはドライブ、近所のスーパーやプラザに行く等一日中家に籠もる事のないように取り組んでいる。	日常的にほぼ全員が散歩やラジオ体操などで外出している。外出の際にはボランティアの方の協力も得られている。また川下公園の入浴施設にも頻繁に出かけている。月のうち何回も外出行事があり、知り合いの畑や海水浴、よさこい祭り見学、ぶどう狩りなど活発に出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が可能な入居者については訪問販売時(乳酸飲料、パン等)の支払いや近所のコンビニエンスストアへ希望の品を購入に行った折の支払いを支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙については積極的に利用の支援を行っている。筆記困難の方への代筆や電話は掛けられないが会話が可能な方への操作支援を行っている。また、毎月写真付きのお便りをお送りしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は家庭的で各自の居室を出ると茶の間があるという安心設計である。居間には観葉植物、書が飾られ心落ち着く環境への配慮がなされている。	食堂と居間が一体的な造りで、道路に面して多くの窓があり、窓際には腰掛けできる畳の部分がある。居間の脇のテラスから前の畑に出ることもできる。居間には行事の写真や大きくて見やすいカレンダーや時計があり、遊び道具など活動意欲を持たせるものも置かれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテレビの前にはソファが設置され窓際には広くたたみの椅子が設けられ入居者個々にゆとりのある生活を楽しんでいる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の生活形態に合わせて馴染みのある本人の使い慣れた家具をお持ちいただいている。仏壇を持って来られている方には仏飯や仏花等の配慮も行っている。	居室には利用者が持ち込んだ戸棚やタンスなどが置かれ、居心地よく過ごすことができる。壁にも写真やカレンダー、表彰状など自由に飾り付けをして楽しむことができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の居室の前には希望に応じて写真と表札を飾り迷う事がないように配慮がなされている。ホールには入居者の顔入り写真が飾ってある。他の入居者の顔、名前をさり気なく確認できる配慮に繋がっている。自分の洗濯物をたためる方には自室へ運んでいただき収納までを支援している。またトイレの場所が分からなくなっても本人が気付けるように扉に札が取り付けており混乱は緩和されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 凜

作成日：平成 23年 11月 25日

市町村受理日：平成 23年 12月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	町内会長や地域包括支援センター職員、家族などが参加して2ヶ月毎に行われている。行事報告や予定、災害対策、外部評価結果報告、参加者からの介護関係質問など質疑応答が活発に行われている。メンバーが固定化しつつあるため、現在メンバーの多様化を検討している。	メンバーの多様化を検討したい意向なので、有識者や知見者などの参加が得られるような方法について、職員や運営推進会議で話し合う機会が持たれるように期待したい。	平日仕事を持っている専門職種の方々に出席を依頼することは困難が伴うところではありますが外部評価が実施された後、即当ホームへ入居者の健康管理のために来訪している看護師に出席依頼を行ったところである。結果、今回は都合が合わず欠席ということになったが今後も引き続き参加を仰いでゆくこととする。	協議後即日
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。